

1. 参加目的

今後、ますます共生社会が進んで行く中でAT技術者の育成はますます重要になっていくと考えられる中で、高専のAT領域における研究の動向を知り、今後の学生教育と研究ネットワークを充実させるため参加した。

2. 開催概要

主催:(一社)日本支援技術協会、全国 KOSEN 支援機器開発ネットワーク(Kosen-AT)

共催:徳山工業高等専門学校、(一社)日本福祉工学会九州支部、熊本高等専門学校(ヒューマン情報技術研究部)

特別協賛:日本マイクロソフト株式会社

開催日:2018年9月7日(金)-9日(日)

会場:徳山工業高等専門学校、徳山駅前賑わい交流施設
プログラム

9/7(金)

17:00-18:00 ワークショップの事前説明, アイスブレイク

9/8(土)

9:30-10:30 一般講演(ポスター発表 23 件, デモ展示 3 件)

10:45-11:20 開会式

11:30-12:10 基調講演(社会福祉法人「交響」理事長 安部倫久氏)

13:00-17:00 ワークショップ(ファシリテータ:山口大学国際総合科学部富本浩一郎氏)

17:00-18:00 学生が企業から学ぶ交流会(茶話会)

9/9(日)

9:00-11:30 ワークショップ(続き)

11:30-12:30 グループ発表・講評

Japan AT フォーラムはAT(Assistive Technology)技術者育成のワークショップと研究交流が行われている。本フォーラムは全国 KOSEN 福祉情報教育フォーラムとしてはじまり、三期間連携事業 AT 領域との合流ののち現在の形となっていて、現在は AT 技術者育成に重きが置かれている。

3. 参加報告

業務の都合で9/7は参加することができなかった。一般講演では高専の学生・教職員の発表と企業も含めた展示が行われた。基調講演は「多様性を認め合い「ともに生きる」ことができる社会に」と題して講演が行われた。工学を学んで福祉にどのように関わることができるか考えさせられる内容だった。

ワークショップは山口大学国際総合科学部の富本浩一郎先生がファシリテータとして、当事者から意見を聞きながらインクルーシブデザインに関するワークショップが行われた。